



日差しを満喫するネコ

米子市 文化活動館 通信



縄張りを点検するネコ

郷土勢が躍進－東京オリ・パラ



館長 中村輝彦

今夏は、世紀の一大イベント東京オリンピック、パラリンピックが開催され、コロナ禍の中、スポーツの力の大きさ、素晴らしさを改めて感じることができました。また、東京オリは米子出身でボクシングの入江聖奈選手の金メダル獲得をはじめ富田千愛選手、三上紗也可選手、武良竜也選手、東京パラでも安野祐平選手ら郷土勢の活躍で大いに盛り上がりました。

一方、文化活動館においては、6、7月にスタートし

た織物教室(全6回)のほか4講座(各全12回)が順調に進んでおります。特に初の試みの織物教室では、受講生の皆さんが卓上織機を巧みに操りながら、熱心にストール制作に取り組んでおられ、感心しました。秋に向けては韓国料理教室、年明けにはロシア料理教室など異文化を体験できる講座も準備しております。

新型コロナウイルス感染症は、一向に収まる気配はありませんが、米子でも切り札であるワクチン接種の2回目が65歳以上の高齢者で9割程度に達しており、若年者への接種の進展、さらに新薬の開発が進めば事態は徐々に改善されるものと期待しています。一日も早く日常が取り戻せるよう願うものです。

弓浜紺の世界(下)

弓浜半島が伯州綿、藍の主産地

弓浜半島は江戸時代中期、約60年の歳月をかけて農業用水路の米川(延長約20キロ)が整備されたことで、広大な砂地が耕作地へと変貌しました。主要作物は伯州綿で、用水路の延長につれて耕作地が拡大し、鳥取藩の特産品となりました。一方、紺生産の広がりや、染料の藍栽培も増加しました。藍は、当初の阿波産(徳島県)から、一時はすべてを弓浜半島産でまかなうほどでした。しかし、江戸後期には、紺の飛躍的な増産で半島産の藍では追いつかず、他藩から移入しました。砂地の弓浜半島は江戸期、鳥取藩の手で耕作地に生まれ変わり、綿と藍の一大産地となりました。こうして弓浜紺の名が高まりました。以下、藍を中心に触れます。(山)=裏面に続く



海老



四季折々

家出ネコを呼び戻す和歌 鎌倉時代の歌人、藤原定家(ふじわらのさだいえ=1162-1241年)が選んだ『小倉百人一首』に、鳥取県ゆかりの1首がみられる。平安時代の歌人、在原行平(ありわらのゆきひら=818-893年)が詠んだ「たち別れ いなばの山の 峰に生(お)ふる まつとし聞かば 今帰り来(こ)む」(古今和歌集収録)だ。大意は「因幡国(鳥取県東部)に向かうのでお別れですが、稲羽山(稲葉山)の峰に生えている松のように、あなたが待っていると聞いたなら、すぐに帰ってこよう」だろうか。「松」と「待つ」など、同音異義語の掛詞(かけことば)で、別れを惜しむ気持ちを巧みに表現している。行平は斉衡(さいこう)2(855)年、因幡国の国守(長官)に任じられた。その際、任地の稲羽山の風景を織り込んで、都を去りがたい思いを詠んだ。他方、行平の早い帰りを待つ思いも強い和歌ゆえに、いつのころからか、ふらりと「家出、したネコを呼び戻す」まじない、に用いられるようになったらしい。その方法のひとつが、ネコに餌を与えていた食器の下に、上の句を書いた半紙を置いておく。そうすれば、願いが通じてネコが帰ってくるという。効果があれば、半紙に下の句を加えて燃やして感謝するのだという。(山)

米川の整備で耕作地拡大

「青は藍より出でて藍より青し」のことわざは、「出藍の誉れ」の意味で、弟子が師匠より優れた存在となることです。藍はタデ科の一年草で、伝統的な緋の染料です。藍が原料の青は、藍より鮮やかで深みのある青を生み出します。弓浜緋に限らず、古くから国内各地で織り出された緋は、綿と藍なくして語れません。

米子、境港両市にまたがる弓浜半島は、江戸時代前期に綿栽培が始まったとされています。ただ、広大な砂地の半島には、綿など農作物を安定的に栽培するだけの水がありませんでした。そこで、鳥取藩は半島を縦断する農業用水路の整備を計画。着工から約60年かけた宝暦 9(1759)年ごろ、日野川と法勝寺川が合流する現米子市の戸上から取水し、半島先端の境港市に至る延長約20キロの人工の川「米川」が完成しました。これによって、荒れた砂地が農地に生まれ変わり、綿作が急速に増えました。

緋の衰退で綿、藍栽培も激減

弓浜緋や藍栽培の起源は、明確にはなっていないようです。ただ、『鳥取県文化財調査報告書第13集』(1981年、県教委)は、藍栽培について「木綿生産が急上昇する化政期(文化、文政時代)になると、領内でも藍作りがはじまる」としたうえで「文化 9(1812)年ごろ、藩は米子に米子藍製場を設け、流通統制だけでなく藩の手による生産をはじめると記述しています。藩が後押しする保護増産政策の基で、自前の藍で染めた弓浜緋の生産が盛んになりました。弓浜緋は明治時代にかけて、生産量が增大しましたが、その後は衰退の一途をたどります。弓浜半島は、米川の貴重な水のおかげで、農家は食料のサツマイモのほか、綿や藍を栽培。時代は過ぎて現在、弓浜半島の代表品種は白ネギへと移り変わりました。(おわり)

韓国料理教室

今回は2日程を設定しました。どちらか一つを選んで申し込みください。

◆日程①令和3年10月23日(土)

②令和3年11月13日(土)

◆メニュー ①は「韓国で今最も流行っている料理」をテーマに、ロゼトッポッキとキンパを調理 ②は「韓国のお正月」をテーマに、餃子入りトッククとトングラテン(チヂミ)を調理

◆時間 10:00-14:00(両日程とも)

◆定員 先着12人(同)

◆講師 申 ナリ先生(同)

◆準備 エプロン、三角巾、筆記用具、マスク

◆受講料 両日程とも500円
(別途、材料費必要)

◆募集 両日程とも10月4日(月)
9:00 から受け付け開始。締め切りは19日だが、定員に達すれば打ち切り。

学べる講座 アラカルト



いざという時の着物着付教室



初めての中国語教室

休館日 ◆10月＝毎週水曜日 ◆11月＝毎週水曜日と23日(火)
◆12月＝毎週水曜日と年末年始の30日(木)～来年1月3日(月)

利用時間 開館日の利用は平日と土曜日が9:00～22:00(日曜日は17:00まで)。部屋貸し出しは閉館の15分前まで。



あとがき



9月15日、今年度1回目の消防訓練を行いました。米子消防器具商会さん立会いのもと通報訓練、初期消火、避難誘導の一連の行動を確認。訓練用の水消火器で本物での取り扱いを模擬体験しました。訓練の検証や改善点なども話し合いました。万一の火災に対応できるよう、定期的に訓練を行っています。県西部の今年の火災件数は68件(8月末現在)で、うち米子市は33件。いま一度、火の取り扱いには気を付けたいものです。11月9日には秋の全国火災予防運動が始まります。(R)

利用者の皆様
マスク着用をお願いします

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原8丁目24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <http://asahibiru.com/ybkk/>